

巻頭言

平成 20 年に「クロマグロ等の養殖科学の国際的教育研究拠点」が選定されて 2 年が過ぎようとしています。また、先の 21 世紀プログラム「クロマグロ等の魚類養殖産業支援型研究拠点」が選定されてから 7 年になります。この間、本拠点は水産科学の分野で世界をリードする第 1 級の研究者・技術者の育成と、クロマグロをはじめとする魚類の養殖科学に関する最先端の研究を精力的に進めてきました。

本拠点は、1948 年設置の旧制大阪理科大学白浜臨海実験所を嚆矢とし、魚類養殖科学の応用的研究を一貫して進めてきた水産研究所と、1958 年および 1986 年よりその基礎的研究を展開している農学部および大学院農学研究科から成っています。

これまで、本拠点の充実した教育・研究体制のもとで学位を取得し、あるいは、博士研究員として貴重で有用な経験を積んだ数多くの若い優秀な研究者が、最新の理論・情報の発信と高度な養成技術の伝播を介して、我が国をはじめとして世界の養殖科学の発展に大きく貢献してきました。

また、本拠点ではクロマグロの養殖研究を中心に数多くの優れた研究成果を蓄積しております。なかでも、2002 年にクロマグロの完全養殖の成功が世界的にクローズアップされたことは記憶に新しく、その後も、初期減耗の軽減、配合飼料開発、養成技術の高度化、水銀含量の低減化、流通の把握と価格決定機構など、これまで解決・解明できなかった多くの問題をクリアしています。2009 年にはそれらの貴重な成果に基づいて、190,000 尾の稚魚を陸上水槽から海上の生簀に沖出するとともに、40,000 尾の種苗生産に成功して、主要な目標である養殖種苗の産業的量产に向けて輝かしい一歩を刻みました。さらに、2009 年にはオーストラリアにおいて、絶滅の危惧にさらされているミナミマグロの共同研究を実施し、世界で初めて人工種苗の生産に成功する快挙を遂げています。

なお、今回まとめられた成果報告書が、クロマグロをはじめとする世界の魚類養殖科学と養殖産業の発展の一助となれば至福の喜びであります。また、2010 年には本拠点で得られた重要な成果を、成書として刊行する予定になっております。近畿大学の建学精神は「実学重視と未来志向」であり、本拠点はまさにこれを具現化するもので、全学が一丸となって今後とも強力に支援する所存です。末尾になりましたが、皆様の本拠点に対する暖かいご支援・ご鞭撻をお願いして、巻頭言といたします。

平成 22 年 3 月

近畿大学学長

畑 博 行